

## 「全鍍連」 2017年 2月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 上村 芳久 (株)ユーミック 代表取締役)

### 「温泉雑談」

ここ2年程、温泉入浴を目的とした日帰りドライブが多くなりました。温泉地でゆったり休養というあこがれのようなものはずいぶん前から持っていましたが、わざわざ入浴のためにそれも日帰りで・・・、というのはほとんどありませんでした。

きっかけは家内が知人に「いいよ」と紹介された近場の温泉に行ったのが始まりで、それから月に1～2回新たな温泉に足を伸ばすようになりました。基本的に日帰りですからそれほど遠くまでは行けませんが、松山の道後や鳥取の名の通った温泉地から最近はやりのスーパー銭湯などなど結構いろんなところへネットで下調べして行っています。当然泉質もそれぞれで透明から濁ったもの、ぬるっとしたものや泡が発生するもの、においや塩分が多く塩辛いもの等々どこに行っても違いを感じる事が出来ますし、ラドン泉なんかは寿命が延びたような気になったりします。また「これは秘境やな」というところに辿り着くのは道中の景色も楽しめてリフレッシュ感たっぷりです。車での日帰りですから湯上がりのビールというわけにはいきませんが、道の駅やJAの直売所を見つけては地場の野菜や酒のつまみになりそうなものを買って帰宅後の晩酌が弾みます。

話は逸れますが、ビールと言えばこの寄稿文を考えているときに私のような酒飲みに朗報が飛び込んできました。「ビールの苦み、認知症予防」のニュース。なんでも「ホップ由来の苦み成分であるイソα酸に、脳内の免疫細胞であるミクログリアを活性化させ、アルツハイマー病の原因とされるアミロイドβを除去する作用がみられた」(2016.11.28 読売オンラインより)というのである。ずいぶん前にも似たようなニュースがあったような気が・・・、そうそう「赤ワインが心臓病予防」、しかも飲めば飲むほど効果あり、という発表がありました。今では完全に検証されていないとかで効用は分からんと手のひら返しですが今回は大丈夫でしょうか？

さて話を戻しますが、きっかけの温泉は家から車で20分程の高松市仏生山町にある「仏生山温泉」で、ぬるつき感は国内でもトップクラスというネットでの評判もあります。重曹を大量に混ぜていると思っていましたが、香川にはめずらしく源泉そのままの上、循環ではなく完全かけ流しだそうです。

実はこの仏生山一帯は地下が数キロにおよぶクレーター形状になっていることを20数年前に金沢大学のチームが重力異常の調査中偶然見つけ「高松クレーター」と名付けられ、隕石衝突説と火山カルデラ説で論争が起こったことがあります。決着は着かずのままですが、このクレーターになんと早明浦ダム数個分の水があることが判明、水に敏感な讃岐人は水不足解消の期待満杯・・・でしたが、取水は技術的に困難とわかり一気にトーンダウンしました。

まあこんな「仏が生まれた山」の地下に巨大クレーターがある小さな町の仏生山温泉、うどんツアーのついでに一度おい  
でませ。

(株式会社ユーミック 代表取締役)